

御遠忌NEWS

門徒の思いを大切に法要を

昭和四十六年、金沢別院上棟式に父の姿はなかった。父は前年の四月に還浄した。

このたび、金沢教区御遠忌法要が勤まる鶴来・金沢両別院の法要部会長を拝命した。そのことを知って、私の姉は知人に「父親が激務の上の過労で若くして死んだ。その轍を踏ませないでほしい」と話したそうだ。華々しい法要の影に、名もしれずに、必死になつて与えられた仕事をこなしてきた人々がいたことを、私たちは忘れてはいけないと思う。

父は、「金沢別院復興事務局主事」として、焼失以来毎日募財の仕事を行っていた。ある家を訪れた時、「ご院主さん、今はこれだけの金しかないけど、別院様のことだから受け取ってほしい」と、一万円を差し出されたそうだ。当時のご香典の平均が五百円の時代である。その金額を見て、父は涙を流して受け取ったと聞いた。名もなき市井の人々・門徒のご懇念を元として勤まる法要。けっして人々のその気持ちを無駄にしてはいけない。

松浦教祐(御遠忌法要部会長)